

二国ざしきわらし



国土交通省 東北地方整備局

岩手河川国道事務所
二戸国道維持出張所

〒028-6103 二戸市石切所字荒瀬72-1
TEL:0195-23-3366

設置から87年の御堂橋、補修工事を実施

平成27年10月20日(火)～22日(木)に岩手町の国道4号御堂橋において、橋梁補修工事を実施しました。御堂橋は、1928年(昭和3年)に設置されてから今年で87年を経過した、当出張所管内では最も古い橋です。

これまで傷んだところを部分的に補修しながら、地域の方々の生活や物流を支え続けてきましたが、交通荷重など長年の疲労が重なり、橋全体が傷んできている状況です。

平成23年11月の点検で「速やかな補修が必要」と判定されたこともあり、橋全体の補修計画を立てていたところですが、今回はこの内、前後の舗装修繕と合わせ、橋面(橋の上面)の補修を行いました。

工事は下の写真のように行いました。



工事前(全景)



①アスファルトを剥がすと、下地のコンクリートにも舗装面と同じ位置に大きいひび割れが見つかりました。



②コンクリートを重機で持ち上げると、割と簡単に剥がれ、床版(※)の間は湿り、一部土砂化していました。



③柔らかい部分を工具やブラシ等で削って、コンクリートの固い面を出し、削りかすをきれいに取り除きます。



工事完了(全景)



⑥固まったら防水材を塗ります。このあと、舗装して工事完了です。



⑤コンクリートを流し込み、平坦に均し、固まるまで待ちます。



④表面をきれいにしたら、新しいコンクリートと前のコンクリートがしっかりとくっつくように接着剤を塗ります。

床版内部に雨水等が浸透すると、コンクリート内部の鉄筋を腐食させたり、コンクリートそのものの劣化を促進させてしまうことから、防水層や舗装で防御する必要があります。

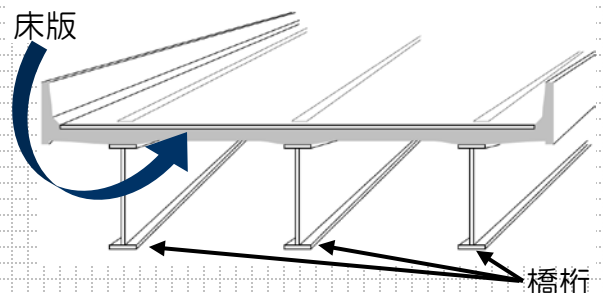
舗装は、年数が経てば劣化してひび割れが生じ、そこから水が入ります。昔の橋になればなるほど、防水層がないなど、防御が万全ではありません。

そこで、今回はわるいところを直すだけではなく、コンクリート同士を接着剤でしっかりとくっつけたり、防水材を塗ったり、水を床版内部に入りにくくするような工夫をしています。

今回の工事で橋面の補修のほか、劣化の速度を遅らせることもできたので、今後、橋の下のほうについても順次補修を進めていく予定です。

※床版(しょうばん)とは?

橋の上を通る車両の重みを、橋桁(はしげた)や橋脚(きょうきやく)に伝えるための床板(ゆかいた)のこと。



ご協力ありがとうございました!